|  |
| --- |
| **論文**Word template（2021.9.17）**日本語著者名**：　右肩の**「1,」「**\* **」「†」**マークについては脚注参照**日本語タイトル** |

**和文論文誌原稿テンプレート（MS-Word）**

**論文種別：**「論文」「速報」等を記入

原子力　花子1,[[1]](#footnote-1)\*，原子力　一郎2,†，原子力　次郎3

**英語著者名：**名字は大文字

日本語と同様の脚注番号をつける

**英語タイトル：**冠詞・接続詞・前置詞を除く各単語の頭文字は大文字

A Template for Writing Manuscripts for MS-Word Users

Hanako GENSHIRYOKU1,\*, Ichiro GENSHIRYOKU2,† and Jiro GENSHIRYOKU3

1 *Nuclear Science Research Institute, 2-4 Shirane, Shirakata, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki 319-1195, Japan*

2 *Division of Energy and Environmental Systems, Graduate School of Engineering, Hokkaido University, Kita-13, Nishi-8, Kita-ku, Sapporo 062-8252, Japan*

**英語所属先：**住所および所属先の英語表記

3 *Atomic Energy Society of Japan, 2-3-7, Shimbashi, Minato-ku, Tokyo 105-0004, Japan*

日付は事務局で記入

（Received　　　　　　　　　　）

**英語抄録：**２００語以内

 The length of the abstract should be 200 words or less. It should briefly state the purpose, method and results of the paper. Authors who are submitting Letter to the Editor or Errata need not to write an abstract. All types of papers, except for Errata, need keywords as shown below.

**KEYWORD：**10語（句）程度、慣用的に大文字にするもの以外は全て小文字

標準キーワードリストから３語以上選ぶこと

***KEYWORDS: keyword1, keyword2, keyword3, keyword4, keyword5, keyword6, keyword7, keyword8, keyword9, keyword10***

**「**1 **」：**所属機関。略語は以下を用いること。

　　　株式会社　　　→　(株)
　有限会社　　　→　(有)
　一般財団法人　→　(一財)
　公益財団法人　→　(公財)
　一般社団法人　→　(一社)
　公益社団法人　→　(公社)
　独立行政法人　→　(独)

　　　国立研究開発法人　→　(国研)

**「**\***」**：連絡者の連絡先（メールアドレス）

**「**†**」**：論文を書いた時と現在の所属が異なる場合、現在所属を記入

# Ⅰ. 緒言

 これはMS-Wordを利用して日本原子力学会和文論文誌へ投稿する著者のためのテンプレートです。日本原子力学会のWebサイトに掲載されている「投稿ガイドライン」、「投稿の手引」および「電子投稿システムのご案内」をご一読後、本テンプレートを利用してください。

# Ⅱ. 投稿論文の書き方の手引き

**1.用紙**

原稿は、罫線などのない白地紙で、可能な限りＡ４判(210 mm × 297 mm)用紙を使用し、印字様式は１ページあたりの文字数が40文字×30行（約2枚で和文論文誌刷り上がり1頁に相当，約2,400字／頁）となるようにする。

**2. 体裁と専門用語の書き方**

文章は読者が読みやすく，わかりやすいよう，かつ簡潔に書く。和文の用語は常用漢字・現代かなづかいに準じ，文体は「である」調に統一する。専門用語はなるべく文部科学省学術用語，JIS用語を使用する。年号は原則として西暦で示し，必要があれば，2004 (平成 16) のように記す。

**3. 見出し、脚注、ページ番号の付け方**

見出しは，章の場合，I (ローマ数字) を使い，以下， 1，2，… (節），(1)，(2)，…(項），(a)，(b)，… (目），a)，b），… とする。 脚注は右肩に a，b，c … のように書き，その頁の下欄に記載する[[2]](#footnote-2)a 。各頁には、表紙から1，2，…のようにページ番号を付ける。

**4. 略称、単位、数式の書き方**

(1) 略称

慣用の略語や化学記号は使ってもよいが， 慣用の略語はタイトルおよび英文抄録には極力使用しない。

例：BWR，PWR，FBR，NaOH，H2O，UO2

なお、一般的でない略語を使用する場合は， 最初に本文に現れるときに説明をつける。

例：Delayed Neutron Detector (DND)，Japan Power Demonstration Reactor (JPDR)

(2) 単位

量記号および単位記号はJIS Z 8203b 指定のものを使用する。単位はSI単位を使用する。

(3) 数式

数式には，(1)(2) … の通し番号を右余白につける。数式は十分に注意して書き，自ら確認すること。下記に例を示す。

 　 (1)



 　　　　　　　　　　(2)

長い式を途中で切る場合には、次の行の前に＋,－,×,÷をつける。

**5. 図と表の書き方**

(1)　図・表の原則

図・表のタイトルおよび図・表中の説明は，原則として英文で書く。オンライン版で図表のカラー表示を希望する場合は，カラーの状態で原稿に含めること。

(2)　図の準備方法

図は本文に組み込まず別紙に作成し，その挿入位置を下記のように本文中に指定する。

＜Figure 1＞

図には Fig.1，Fig.2 …のように番号をつける。グラフ，説明図と写真図はすべて "Figure(s)" とし、本文中に現れる順番に，アラビア数字の“１”から連続番号を付ける。

図(写真を含む)はまとめて，本文の後に図のタイトル一覧(キャプションリスト)とともに付ける。1ページに1図ずつ，見やすい大きさで作成する。ただし，刷上がり横寸法(片段 8 cm，両段17 cm)に縮小されたときに，すべての文字が判別できることを確認すること。

グラフは縦軸，横軸で周囲を囲み，それぞれ目盛りを入れる。

図はTIFF, EPS (Photoshop, Illustrator)，PDF(フォント埋込済), PowerPoint，PICTまたはJPEG(300dpi以上)等で作成することが望ましい。計算機出力用紙や記録紙等の結果やコンピュータ画面のハードコピーをそのまま原図として用いる場合は，図が十分鮮明なもので，また文字が適正な大きさとなるように特に配慮する。

**Figure 1**は本文中で引用する場合の表示例である。初めてFigureを引用するときはボールド体にする。また，Figureは文頭ではフルスペルにするが，文中ではFig.1, Figs.4 および 5 のように略す。添付するすべての図には，タイトル，著者名，図番号を余白部分に明瞭に記入する。

(3) 表の準備方法

表も，本文に組み込まず別紙に作成し，その挿入位置を下記のように本文中に指定する。

＜Table 1＞

表にはTable 1，Table 2 … のように番号をつける。本文中に現れる順番に，アラビア数字の“１”から連続番号を付ける。表はまとめて，本文の後に表のタイトル一覧(キャプションリスト)とともに付ける。1ページに1 表ずつ，見やすい大きさで作成する。

**Table 1**は本文中で引用する場合の表示例である。初めてTableを引用するときはボールド体にする。添付するすべての図には，タイトル，著者名，表番号を余白部分に明瞭に記入する。

**6. 文献引用の書き方**

(1) 記載する場所

文献引用にあたっては，参照する順に右肩に半角数字で 1)，2)，3 - 5），とつけ，参考文献は本文の末尾にまとめて記載する1-8)。

(2) 文献の著者名の記述

文献の著者名，論文名を原則入れる。ただし，引用文献が膨大になる場合は例外も認める。なお，連名著者が４名以上の場合は，３名の著者名を記し，et al.として省略してもよい。著者名は，欧文表記の場合，I. Tanaka のようにfamily nameを後に書き，その他はイニシャルのみを記すのを原則とする。

(3) 文献タイトルと発行日時，出版元等の記述

ページ数は巻ごとの通しページを書き，通しページでない場合には必ず号数を入れる。レポートを引用する場合，なるべく発行機関名も記入する。インターネット上でアクセス可能な文献はURLやDOIも記載する。

(a) 雑誌

雑誌の参照にあたっては，著者名, “論文名,” 雑誌名，巻数，ページ， 発行年またはDOIの順に記載する1-4)。

(b) 単行本

単行本の参照にあたっては，著者名，書名，(編者，) 出版者，出版地，ページ，ISBN番号またはISSN番号（番号がある場合），発行年の順に記載する5)。

(c) レポート

レポートの参照にあたっては，著者名，レポート名，レポート番号，発行機関, 発行年の順に記載する6)。

(d) プロシーディング

プロシーディングの参照にあたっては，著者名, “論文名,” プロシーディング名，開催地，開催年月日，巻数，ページ， 発行年の順に記載する7) 。プロシーディングがCD-ROM形式で出版されている場合は，引用の末尾に “[CD-ROM]” を追加する。また，ISBN番号やISSN番号がある場合には明記する7)。

(e)　インターネット

インターネット上のデータ等の参照にあたっては，著者名，“ウェブページの題名，”ウェブサイトの名称，更新日付，[言語の表示]（英語以外の場合），[媒体表示]，URL，（アクセスした日付）の順に記載する9)。

(f)英語以外の文献

英語以外の雑誌・単行本・レポートを引用する場合は，［in Japanese］［in Russian］などを付記する。日本語などラテン文字以外の単行本等は，英語訳[原語] の形式の表記を原則とするが，発行機関や著者による論文名や発行機関名などの公式の英語訳がある場合は，英語のみを用いる。公式の英語訳がない場合[原語のローマ字表記]のみを用いることも認める。日本語のローマ字表記は，著者や自治体，機関自身などによる定まった表記法がある場合(例: Shimadzu Corporation[島津製作所]) を除き，修正ヘボン式の表記を基本とする。10)。

# Ⅲ. 結論

われわれは本テンプレートが日本原子力学会和文誌への論文投稿に役立つことを期待している。

# 謝辞

記号説明(Nomenclature)，付録(Appendix)がある場合には、結論→記号説明→謝辞→参考文献→付録の順にする。

著者は本テンプレート作成にあたり、有益な助言・コメントをいただいたアトム教授に感謝する。

# References

1) K. Shibata, O. Iwamoto, T. Nakagawa, N. Iwamoto, A. Ichihara, S. Kunieda, S. Chiba, K. Furukawa, N. Otuka, T. Ohsawa, T. Murata, H. Matsunobu, A. Zukeran, S. Kameda, J. Katakura, “JENDL-4.0: A New Library for Nuclear Science and Engineering,” *J. Nucl. Sci. Technol.* **48**, 1-30 (2011) , https://dx.doi.org/10.1080/18811248.2011.9711675.

著者名は、I. Tanakaのようにfamily nameを後に書き、それ以外はイニシャルのみ

2) K. Ishii, A. Fushimi, T. Hino *et al.*, “Analysis of mixed oxide fuel critical experiments EPICURE and MISTRAL with nuclear analysis code for BWR,” *Trans. At. Energy Soc. Jpn*, **5**[1], 34-44 (2006), [in Japanese], https://doi.org/10.3327/taesj2002.5.34.

1) 2) 3)雑誌：著者名，“論文名，”*雑誌名（イタリック体）*，**巻数（ボールド体）**，ページ，発行年の順

3) S. Uchida, K. Tagami, N. Ishii, “Characteristics of radionuclide behavior in the soil environment,” *J. At. Energy Soc. Jpn*. 53, 623–627 (2011). [in Japanese] , http://www.aesj.net/permalink/atomos201109/ (cited 2018 March 14).

英語以外を引用する場合は、［in Japanese］［in Russian］などを付記する

4) K. Yokoyama, A. Yamamoto, “Cross-section adjustment methods based on minimum variance unbiased estimation,” *J. Nucl. Sci. Technol.* DOI:10.1080/00223131.2016.1146637

DOIは末尾に記載する

5) W. M. Stacey, *Nuclear Reactor Physics*, John Wiley & Sons, New York, 437-448, ISBN 0471391271 (2001).

単行本：著者名，*書名（イタリック体）*，（編者），出版者，出版地，ページ，ISBN等番号（ある場合），発行年の順

6) K. Okumura and Y. Nagaya, *Production of neutron cross section library based on JENDL-4.0 to continuous-energy Monte Carlo code MVP and Its application to criticality analysis of benchmark problems in the ICSBEP handbook*, JAEA-Data/Code 2011-010, Japan Atomic Energy Agency, (2011), [in Japanese], http://dx.doi.org/10.11484/jaea-data-code-2011-010.

レポート：著者名，論文名,*レポート名（イタリック体）*，レポート番号，発行機関，発行年の順

7) K. Hesketh, M. Delpech, E. Sartori, “Multiple Recycling of Plutonium in PWR – A Physics Code Benchmark Study by the OECD/NEA,” *Proc. Global 1997*, Yokohama, Japan, Oct. 5–7, 1997, Vol.1, p.287 (1997).

プロシーディング（冊子体）：著者名，“論文名，”*プロシーディング名（イタリック体）*，開催地，開催年月日，巻数，ページ，ISBN等番号（ある場合），発行年の順

8) K. Nakajima, H. Unesaki, “On the Analysis Method of Effective Delayed NeutronFraction at Thermal Neutron Systems,” *Proc. PHYSOR-2006*, Vancouver, Canada, Sep. 10-14, 2006, ISBN 0-89448-697-7 (2006), [CD-ROM].

プロシーディング（CD-ROM）：著者名，“論文名，”*プロシーディング名（イタリック体）*，開催地，開催年月日，ISBN等番号（ある場合），発行年の順。[CD-ROM]と付記する

9) Japan Atomic Energy Agency, “JENDL-4.0u”, Japan Atomic Energy Agency, 2015 Jan 27, [Internet], http://wwwndc.jaea.go.jp/jendl/j40/update/, (cited 2015 July 24).

著者名，“ウェブページの題名，”ウェブサイトの名称，更新日付， [言語の表示] （英語以外の場合），[媒体表示]，URL，（アクセスした日付）の順。

10) K. Kobayashi, *Reactor Physics*[*原子炉物理*], Corona Publishing Co., Ltd., Tokyo, 557-627, ISBN 978-4-339-06583-1 (1995), [in Japanese].

日本語等ラテン文字以外の文献は，英文訳[原語] 形式で表記。著者や出版者によるタイトル等の公式の英文訳がある場合は，英語のみを用いる。 [in Japanese]等を付記する。

または，英文訳がない場合[原語のローマ字表記]形式のみも認める。

11) K. Kobayashi, [*Genshirobutsuri*], Corona Publishing Co., Ltd., Tokyo, 557-627, ISBN 978-4-339-06583-1 (1995). [in Japanese].

表タイトル一覧

Table 1 This is the title for Table 1

Table 2 This is the title for Table 2

Table 3 This is the title for Table 3

Table 4 This is the title for Table 4

Table 5 This is the title for Table 5

図タイトル一覧

Fig.1 This is the title for Figure 1

Fig.2 This is the title for Figure 2

Fig.3 This is the title for Figure 3

Fig.4 This is the title for Figure 4

Fig.5 This is the title for Figure 5

表番号，表タイトル

**Table 1** Target thickness and isotopic enrichment

|  |
| --- |
| Target nucleus Target thickness Isotopic enrichment (mg/cm2) (%) |
| 112Cd 1.04 97.05表中文字の頭は大文字にする。118Sn 0.90 97.79120Sn 0.61 98.39Sb 1.11 Natural128Te 1.92 99.19130Te 2.08 99.49 |

表には、縦の区切り線は原則として入れない。

原子力花子
和文論文誌原稿テンプレート

第１著者名

論文タイトル

図中の記号すべてが説明されているか、軸に数値、単位、軸の説明が入っているか、説明されていない略号が無いか、各シンボルは明瞭に区別できるかを確認すること。



図のキャプションは、別紙に打ち出して一覧にし、キャプションリストとして添付する。

図番号，図タイトル

**Fig.1** This is the title for Figure 1

原子力花子
和文論文誌原稿テンプレート

第１著者名

1. 1(国研)日本原子力開発機構 原子力科学研究所

2北海道大学工学研究院エネルギー環境システム専攻

3(一社)日本原子力学会

\*Corresponding author, E-mail: zzz@abc.def.ne.jp

†現在，科学技術振興機構(Japan Science and Technology Agency) [↑](#footnote-ref-1)
2. a これは脚注の例である。

b“国際単位系 ( SI ) 及びその使い方 JIS Z 8203 ” (日本規格協会発行) を参照。 [↑](#footnote-ref-2)